

事業名称	デジタル技術を活用した多様なコミュニティ創出による地域活性化事業(事業期間:令和5年度～令和7年度)
事業の目標	河内長野市では、人口減少・少子高齢化が急激に進む開発団地の解決に向けて、「地域住民が住み慣れた場所で多世代と交流しながら、生きがいを持ち、元気に暮らし続けることができるまちづくり」をコンセプトに南花台スマートエイジング・シティ団地再生モデル事業を推進してきた。 この事業において、南花台地域では、まちのスーパーマーケット内に地域活動拠点を整備することで、いつでも、だれでも気軽に訪れられる場所を作り、そこで市民と行政が気軽に意見交換をすることにより、血の通った交流が生まれ、真の地域課題を共有し、協働によりそれを解決するという取り組みを進めてきた。 その結果として、まちの困りごとを地域住民主体で解決する生活支援の取り組みやボランティアによる子育て支援など、多様な地域活動が創出され、それらの連携により地域活動拠点の継続的な運営が実施できている。 今後は、この様な地域単位での活動を大きく横展開し、地域の特性にあわせた協働のまちづくりを推進していくことで、河内長野市全体のまちづくりの活性化を目指していく時期になっている。 他方、全国的な潮流に視点を移すと、コロナ禍によるオンライン会議等テレワークの拡がりやメタバースを通じたイベントなど、オンライン上でのコミュニケーションが急速な広がりを見せ、時間的・空間的制約から解放された様々なコミュニティが生まれる素地がある。 この様な状況を踏まえ、オンラインコミュニティの活用により、地域コミュニティが活性化され、多くの市民が地域のまちづくり活動に主体的に参画するとともに、担い手である市民等と行政とが、まちづくりの方向性を共有し、相互理解に基づく、多様な主体による「協働によるまち」を目指すとともに、市民の本市に対する誇りや愛着、市内外からの認知度や好感度が高まることにより、住む・働く・学ぶ・遊ぶ・買うなどの様々な場面において本市が「選ばれるまち」をめざす。
全体の概要	若い世代を含む現役世代の地域コミュニティへの参画率を上げるため、仕事との両立や、現在の地域コミュニティの大部分を占める高齢者との生活環境の差に左右されない、オンライン上でのコミュニティ創出やコミュニケーションシステムの運用を実施。あわせて、既存のコミュニティの担い手の主力である高齢者にも、同様にデジタル技術を活用したコミュニティに参画してもらうため、デジタルデバйд解消をめざすとともに、本市の魅力を市民及び関係人口とともに感じ、その魅力を明確化し、市のイメージ転換を図りながらシビックプライドを醸成し、「市民が誇れるまち」へと誘導することで、主体的なコミュニティへの参画意識の向上を図る。

【数値目標(KPI)及び実績】

項目		事業開始前	令和5年度 (増加分)	令和6年度 (増加分)	令和7年度 (増加分)	累計
オンラインコミュニケーションプラットフォームの登録者数	目標	0	300	500	700	1,500
	実績		461	339	86	886
30代以下のまちづくり活動への参加状況(月1回以上)の割合	目標	4.2	0.3	0.5	1.0	1.8
	実績		2.2	0.5	4.2	6.9
市民同士の連携や市民と行政の協働に関する市民満足度	目標	3.8	0.7	2.0	2.5	5.2
	実績		3.6	2.0	0.6	6.2
「河内長野市に愛着と誇りを感じている」市民の割合	目標	33.4	1.6	2.0	3.0	6.6
	実績		4.2	2.0	-4.4	1.8
令和7年度の指標の状況及び事業への反映の考え方		「オンラインコミュニケーションプラットフォームの登録者数」については令和7年度の目標は未達成であるものの「第5次健康増進計画」策定に向け、シンポジウムと連携した意見集約を行うことにより、1,425件の意見を扱った。 30代以下のまちづくり活動への参加状況については、大幅な増加となった。また、市民同士の連携や市民と行政の協働に関する満足度については、年度としては未達ながら累計では目標を超える結果となった。 デジタルデバйд解消を目的としたスマホ講座を推進することで、オンライン回覧板アプリ(いちのいち)などが定着し、地域活動にデジタルツールが浸透する機会となっている。				

委員会評価	【委員会評価】 下記から選択して下さい。	【評価等に対する意見】
	取組事業が評価交付金事業の目標・KPI達成するために ①妥当である ②概ね妥当である ③検討を要する	

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ) 評価シート

事業名称	デジタル技術を活用した多様なコミュニティ創出による地域活性化事業	
要素事業①	デジタル技術を活用した新たなコミュニティの創出事業	担当課 まち創造戦略部まちづくり推進課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和7年度実施事業	・関西大学ソーシャルアントレプレナーシッププログラムとの連携により、学生視点でのLiqid活用モデルを探索 ・「健康増進計画調査」での意見収集 ・デジタルデバйд解消を目的としたスマホ講座の実施 ・総合研究会など各プロジェクト会議の運営 ・「咲っく南花台プロジェクト横展開」として「美加の台カーナートテラス」における地域活動拠点化推進	[参考指標] ●オンラインコミュニケーションプラットフォームの登録者数:886人 ●年間投稿数:1,574件 ●スマホ講座:27回、300名 ・市窓16回、195名 ・地域福祉(団体向け)6回、78名 ・地域福祉(スマホパートナー養成)5回、27名 ●コノミヤテラス関係人口:191名 ●美加の台カーナートテラスワークショップ:5回(R7.8～)	7,527
		(合計)	7,527

	【令和7年度評価】	【令和7年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	・「第6次総合計画」策定に向け、シンポジウムと連動したLiqidスペースを設置し、市民から133件のコメントを収集した。 ・「第5次健康増進計画策定」に向け、Liqidを活用した大規模な市民意識調査を実施した。設問設計から広報展開・調査運用・集計まで一貫してサポートし、計1,425件の意見を扱った。 ・デジタルデバйд解消を目的に、スマホ講座を開催。地域活動におけるデジタル化の推進を図った。 ・30代以下のまちづくり活動への参加が、大幅に増加したことは、若年層、子育て層へターゲットを当てて事業を行ってきた結果の成果と考える。 ・咲っく南花台プロジェクトの拠点であるコノミヤテラスにおいて、子育て、健康づくり、生活応援など多様な事業を実施し、地域活動の活性化が進んだ。 ・美加の台地区の拠点である「美加の台カーナートテラス」を中心に、ワークショップや住民アンケートを実施し、活動の見える化を行い、まちづくりへの機運醸成を図った。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

	【今後の課題・取組みなど】
改善	・オンラインコミュニケーションプラットフォームを多世代の方の声を集められるよう、学生グループのプロジェクトを立ち上げ、より効果的な活用方法について検討を進める。 ・自治会等が実施するデジタルデバйд解消に向けたスマホ講座に対する支援を行い、地域活動におけるオンライン化の推進を図る。 ・連続ワークショップにオンラインを併用することで地域活動の関係人口を増やし、地域の課題解決と、生活の質の向上、コミュニティの活性化を図る。 ・南花台で創出されたまちづくり活動のモデルを市内他地域へ横展開し、「美加の台カーナートテラス」において、より積極的に地域住民や事業者との連携を図り、生活の質の向上や、コミュニティの活性化など相乗効果を生み出していく。

河内長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略
デジタル田園都市国家構想交付金（地方創生推進タイプ） 評価シート

事業名称	デジタル技術を活用した多様なコミュニティ創出による地域活性化事業	
要素事業②	主体的な地域活動への参加を促すシビックプライドの醸成	担当課 営業部シティプロモーション課

	実施内容	成果	事業費(千円)
令和7年度実施事業	●ブランディングプロモーション推進事業 本市が、自分らしくいきいきと、安心して暮らせるまちとして、若年世代に認識されるようなイメージを醸成するとともに、本市のブランド力の強化に寄与することを目的として、15歳から34歳の若者で構成される「若者ミライプロジェクト」を運営した。約半年間にわたり、「情報発信チーム」あるいは「企画開発チーム」に属する市民メンバー（計47名）が中心となって、ワークショップや情報発信、イベント企画などの共創活動を展開した。また、20代後半から30代で子育てのために移住先を検討する層に対して、河内長野での暮らしに関心を持ってもらえるよう、キャッチコピー（都会は、たまに派。河内長野市）を開発し、ロゴデザイン化するとともに、PR動画を制作した。 ●まちの参観日in河内長野事業 南海電気鉄道株式会社と、令和4年8月1日に締結した「河内長野市と南海電気鉄道株式会社との連携協力に関する基本協定書」の協力事項に基づき、河内長野市への若年層や子育て世代を中心とした世代の転入・定住に寄与する事業を実施した。	●ブランディング ○情報発信チーム(23名) ・個別Instagramにて10アカウントを新規開設 +まとめ配信用Instagramを2アカウント運用: フォロワー数6,018人、投稿数892件 ○企画開発(24名) ・蚤の市 2月22日(日)開催、のべ3,200名以上が来場 ・Instagramアカウント「河内長野ミラプロ」運営、フォロワー数3,400人超 ・デジタルスタンプラリー開催、総チェックイン数1,681回 ●まちの参観日 ・オンラインイベント R7.11 申込者数:2,416人 ・リアルイベント R7.11~R8.2 4回実施 参加者数:16組34人	21,742
		(合計)	21,742

	【令和7年度評価】	【令和7年度の評価内容】
担当者評価	①非常に効果的であった	ブランディングプロモーション推進事業では、「若者ミライプロジェクト」を通じた市民共創により、若年層の視点で市の魅力を再定義し、ブランド力の向上を図る目的を十分に達成した。47名のメンバーによるSNS発信では計9,400人超のフォロワーを獲得し、都心部居住者への認知拡大に直結した。また、企画開発チームによるイベント(蚤の市)は、のべ3,200名超の集客実績を残し、地域の活性化とシビックプライドの醸成に大きく貢献した。 さらに、「まちの参観日 in 河内長野」では、オンラインイベントで2,400人を超える申込を獲得し、市への関心層を大幅に拡大させるとともに、リアルイベントを通じ、ターゲット層である若年・子育て世代に対して、直接的にまちの魅力を伝える場を創出することができた。株式会社NANKAIと市の双方の強みを活かした事業の実施により、関係人口の創出および移住・定住の促進という目的において、極めて高い波及効果があったと評価する。

評価: 交付金事業の目標・KPI達成に「①非常に効果的であった」、「②相当程度効果があった」、「③効果があった」、「④効果がなかった」

改善	【今後の課題・取組みなど】 限られた予算で最大の効果を上げるため、今後はターゲットへの訴求力が高い手法へ重点的に資源を集中させた内容となるよう精査し、一過性のイベントに留まらない継続的な仕組みを構築する。持続可能かつ実効性の高い事業スキームへと着実にブラッシュアップし、シビックプライドの醸成と移住・定住の促進を強力に推進していく。
----	--